

各位

上場会社名 株式会社 エヌ・ピー・シー
 代表者 代表取締役社長 伊藤 雅文
 (コード番号 6255)
 問合せ先責任者 取締役副社長 佐藤 寿
 (TEL 03-5615-5069)

業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年10月7日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また、特別損失が発生いたしますのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成24年8月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年9月1日～平成24年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	17,021	652	541	394	21.20
今回修正予想(B)	10,078	△734	△968	△1,658	△75.21
増減額(B-A)	△6,943	△1,386	△1,509	△2,052	
増減率(%)	△40.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成23年8月期)	16,575	△1,406	△1,072	△861	△46.33

平成24年8月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年9月1日～平成24年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,477	323	248	217	11.73
今回修正予想(B)	8,433	△582	△747	△1,281	△58.11
増減額(B-A)	△6,044	△905	△995	△1,498	
増減率(%)	△41.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成23年8月期)	15,830	△726	△385	△157	△8.49

修正の理由

平成24年8月期通期の個別業績予想修正の理由は、以下のとおりであります。

当社グループが属する太陽電池業界では、太陽電池の設置の中心であった欧州の金融不安の影響や、太陽電池の主力設置先であるドイツ及びイタリアにおける電力買取制度を含む政府の支援政策の動向が不透明であること等により、太陽電池の需要動向を予測することが難しくなっております。そのため、当社顧客である太陽電池メーカーが設備投資に対して慎重になっていることから、当社の主力事業である太陽電池製造装置の市場規模は想定以上に落ち込んでおります。その結果として、当社の受注は期初計画よりも低水準で推移しております。

そのような状況下、個別売上高につきましては、受注が低水準で推移しており、今期中に売上計上できる案件が限定されることで、前回発表予想より6,044百万円減少し、8,433百万円となる見込みであります。営業損益につきましては、総費用(販売管理費・製造経費)の削減は順調に進んでいるものの、上述のとおり売上高が前回発表予想を下回ることで、損益分岐点の売上高が達成できないことにより、前回発表予想より905百万円減少し、582百万円の営業損失を計上する見込みであります。経常損益につきましては、上述の営業損失の計上に加え、主として為替差損による202百万円を営業外損失に計上すること等により、前回発表予想より995百万円減少し、747百万円の経常損失を計上する見込みであります。当期純損益につきましては、当社連結子会社であるNPC-Meier GmbHに係る減損損失(関係会社出資金402百万円)を計上すること、平成24年6月29日付で公表した「経営の合理化に関するお知らせ」のとおり、特別退職金の費用約100百万円等を特別損失として計上すること等により、前回発表予想より1,498百万円減少し、1,281百万円の当期純損失を計上する見込みであります。

平成24年8月期通期の連結業績予想修正の理由としては、個別業績予想修正の理由と同一ではありませんが、特に欧州の太陽電池メーカーを主要顧客としていた当社連結子会社であるNPC-Meier GmbHが上述の外部要因の影響を多大に受けました。この結果、連結売上高につきましては、6,943百万円減少し、10,078百万円となる見込みであります。営業損益につきましては、1,386百万円減少し、734百万円の営業損失を計上する見込みであります。経常損益につきましては、1,509百万円減少し、968百万円の経常損失を計上する見込みであります。また、当期純損益につきましては、上述の個別財務諸表に係る特別退職金の費用約100百万円等の特別損失に加え、NPC-Meier GmbHののれん等に係る減損損失371百万円を計上すること、更にNPC-Meier GmbHの再編効率化の費用約110百万円を特別損失として見込んでいることから(注1)、前回発表予想より2,052百万円減少し、1,658百万円の当期純損失を計上する見込みであります。

(注1)個別財務諸表における関係会社出資金402百万円の減損会計は、連結決算の経理処理上で相殺され、連結財務諸表における特別損失は発生しません。
(注2)上記予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上